

感震ブレーカーの取扱いの留意点

感震ブレーカーを設置いただくことにより、大きな地震が発生した場合、外出中で不在の場合や緊急に避難する必要がある場合など、ブレーカーを落したり、電気製品のコンセントを抜くことができていなくても、電気火災を防止することが可能です。

なお、避難先から帰宅後に電気を使用する際には、屋内の点検が必要です。

感震ブレーカーを設置した自宅に 帰宅した時のチェックなど

避難先から帰宅した際、照明等がつかない場合には、感震ブレーカーが作動している場合があります。

(※)ガスの臭いがする場合には、まず換気やガス会社への連絡等をお願いします。



感震ブレーカーが作動しているかどうかを確認します。



感震ブレーカーが作動しており、電気を使用するためにリセットする必要がある場合、電気火災の危険がないか、屋内を点検しましょう。

- ① ヒーター、白熱灯等の周辺に可燃物が無いことを確認しましょう。
- ② すぐに使用しないアイロン、ドライヤー等のコンセントを抜きましょう。
- ③ 電気製品やコンセントに水がかかっていないかを確認しましょう。



感震ブレーカーをリセットしましょう。

(※)分電盤タイプの場合は、通常のブレーカーの復帰と同様にスイッチを戻すことでリセットされます。(詳しくは各製品の説明書をご覧ください。)

(※)使用再開後しばらくは様子を見るなど注意が必要です。(壁内の配線の損傷や電気製品内部の損傷等については、外見では発見できない場合があります。こげ臭いなど、異常を感じた場合には、ブレーカーを落としてから、再度屋内を点検しましょう。)

【注意！】地震による突然の停電が発生した場合に身を守る対策に取り組みましょう。

- 生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、停電に対処できるバッテリー等を備えてください。
- 夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

(※)地震で停電が生じていても、避難をされている間に、電気が復旧した留守宅で電気火災が発生する場合があります。一方で夜間に地震による停電が発生した場合には、ブレーカーを落としてから避難することは一層難しくなるため、その点でも感震ブレーカーの設置が推奨されますが、その前提として、まず身の安全を確保するための停電対策をご検討ください。



内閣府